



神奈川

発行 立命館大学
 校友会神奈川県支部
 〒 221 横浜市神奈川区
 鶴屋町 2-21-9
 トーア(株)内 広報担当
 (発行 1300部)
 ☎ (045) 312-1321

校友の皆さまへ



立命館総長 谷岡武雄

学祖の西園寺公望公は明治二年に「立命館」という私塾を境・京都御苑の中にあつた私邸において創始されました。西園寺公望公は、時代を先取りするため、当時の有名な学者を賓師として迎え、新しい時代の動きを学びとらうとされたわけでありませう。

そうして明治三十三年に、西園寺公望公とゆかりの深い中川小十郎先生が鴨川のほとりにおいて私立京都法政学校を開校し、やがて「立命館」の名称と建学の精神を受け継いで、今日の立命館学園を組織されました。

やがて、昭和六十五年を迎えますが、この年は立命館は西園寺公望公が創始されてより百二十年、中川小十郎先生が創立されてより九十年になります。

創始・創立以来、我が立命館は、幅広い国際性にもとづく「自由と平等」を学風とし、個性的で、かつ創造力のゆたかな人材の育成を通じて、社会的使命の達成に努力をかさねてまいりました。

私たちの学園は、今日に至るまで、時代の変遷にしたがって、さまざまに困難に遭遇してきましたが、これら

克服し、今日では、我が国屈指の中学校・高等学校・大学・大学院をもつ総合学園として成長し、約二万一千人の在学生、約十八万人に及ぶ卒業生を擁しております。

法学部・経済学部・経営学部・産業社会学部・文学部・理工学部・六学部とそれぞれの学部に大学院を置く私たちの立命館大学は、名実ともに私学屈指の総合大学として、その位置を占めるに至っております。

このように立命館がゆるぎない総合学園として発展してまいりましたのは、校友の皆さまの常に交らぬご協力の賜物として、深く感謝いたしております。

社会はいま、国際化・情報化に向けて大きく動き出しています。世界の中心の日本、「情報化時代における日本」といえます。政治・経済・社会・文化をはじめ、あらゆる分野での国際化、科学技術の進歩による高度な情報化は、二十一世紀に向けての大きな流れであります。これらの社会的要請に応えて、教育研究の一層の充実を図ることが私たちの立命館が果さねばならない責務であると、考えています。

二十一世紀に向けての飛躍をめざして、立命館は新たな総合学園づくりの計画を「学園基本計画要綱」として全学的な論議を経て樹立し、総力をあげて実現させる決意を固めました。

学園基本計画要綱の骨子は、(1)国際社会にふさわしい人材を育成する国際関係学部の新設、(2)情報化の進展に因應するため、理工学部に情報工学科の増設、(3)既存各学部・学科の刷新・充実を基礎とした新たな大学づくりであります。

あと四年後に、創始百二十年・創立九十周年を迎えるにあたり、さらに(1)「西園寺公望伝」、中川小十郎著「近代日本の政局と西園寺公望」、学園史料集、などの記念出版、(2)国際交流基金、学術研究助成金、スポーツ振興基金などの基金の設定、をも加えて、これらの諸事業を、立命館創始百二十年学園創立九十周年記念事業」としてまとめ、同記念事業会を設立して事業の遂行に必要な資金を得るために、寄付金の募集を行うことになりました。

この記念事業を遂行していくためには、厳しい経済情勢の中ではありますが、校友の皆さまをはじめとして、在校生父母、法人企業など各方面からのご協力を仰がざるを得ない次第であります。

二十一世紀に向けて大きく飛躍しようとする母校立命館に對しまして、より一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。ご協力をお願い申し上げます。

・ 第 5 回 神 奈 川 県 支 部 総 会 の お 知 ら せ

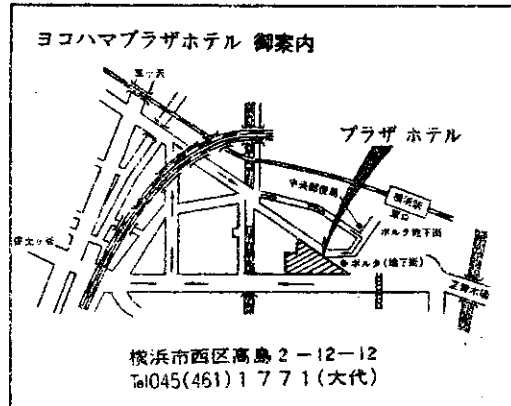
昭和62年3月8日(日)、ヨコハマプラザホテルにて開かれます。校友多数の参加をお待ちしております。家族の参加大歓迎。(詳細は第2面に)

第5回 神奈川県支部総会開催のお知らせ

校友の皆様、御健勝にておすごしのことと存じます。神奈川県支部が昭和58年2月11日に設立されてはや4年になろうとしています。講演会・つりの会・ゴルフの会・ヨットの会・第3水曜日の会と親睦を深めてきました。来たる3月8日には京都より谷岡武雄総長をお迎えして第5回総会を開きます。

校友相誘って多数ご出席下さるようお願い致します。

- ・ 期 日 昭和62年3月8日(日)
- ・ 場 所 ヨコハマプラザホテル
- ・ 会 費 ￥ 10,000
(年会費を含む)



○ ヨットの会 開かれる

10月4日(土)～5日(日)西村 弘 (昭26年経済卒) さんの計画によりヨットの会が開かれました。夜の更けるのも忘れ楽しくすごすことができました。参加者6名。

○ ゴルフの会 開かれる

10月12日(日)第6回ゴルフの会が 沼津国際カントリークラブにて茂山 哲也 (昭31年理工卒) さんのお世話により開かれました。約40名参加。

我が立命館の生んだ作家 正延 哲士 氏の著書を紹介します。是非、御一読下さい。

・ 博士頭芦田主馬太夫	現代企画室	¥ 1,500
・ 日本叛乱伝説	徳間書店	¥ 700
・ 遙かなり聖母の河	〃	¥ 680
・ 新・国姓爺伝説	〃	¥ 680
・ 最後の博徒 波谷守之の半生	三一書房	¥ 1,800
・ 続・最後の博徒 波谷守之外伝	〃	¥ 1,800
・ 昭和三年の法医鑑定	木馬書館	¥ 1,500
再審・山本久雄老事件の焦点		
・ 昭和三年の法医鑑定	〃	¥ 1,500

※ 正延 哲士 (1931年生 立命館大学 哲学科中退)

立命館大学 8年ぶり優勝 関西学生野球

4月5日から行なわれた昭和61年度春季関西野球リーグは立命館大学の優勝で幕を閉じた。リーグ最終週、伝統の立命館—同志社戦は天津の皇子山球場で行なわれ、立命館が連勝して53年春以来16シーズンぶり18度目の優勝(新リーグでは初)を勝点5の完全優勝で達成した。

	立命	関大	関学	関大	近大	京大	勝	敗	勝点	勝率	順位
立命	★	○○	●○○	○○	○○	○○	10	1	5	9.09	優勝
関大	●●	★	○○○	●●	●●	○○	4	7	2	3.64	5
関学	○○○	●○○	★	●○○	●●	○○	6	7	2	4.62	3
関大	●●	○○	○○●	★	●●	○○	5	6	2	4.55	4
近大	●●	○○	○○	○○	★	○○	8	2	4	8.00	2
京大	●●	●●	●●	●●	●●	★	0	10	0	0.00	6

関西は立命 春秋連覇

立命が3シーズン連続十九度目の優勝。

立命は一勝、関大は連勝の条件でもって優勝がかかった関西学生野球リーグ最終週第一日、立命・関大一回戦は二十五日、大津市の皇子山球場で行われ、立命が5-2で勝ち春秋連覇を達成した。

昭和61年11月20日

毎日新聞

フェスピックでまた、都市に仕掛けを考える神戸市長
みるさき
宮崎 辰雄さん

神戸市出身。立命館大法経学部卒。昭和12年神戸市役所に。助役を経て44年から神戸市長を連続五期。法学博士。75歳。



「都市経営者」としての手腕と実績は既に知られている。外国でお金(マルク、スイス・フラン)を集めて海に土地をつくり、その人工島で五年前に開いたポートピアでは思ってもみなかった六十五億円もの大もうけ。昨年のユニバーシアードもロス五輪と同じ企業協賛方式をとり入れ黒字。「神戸株式会社」の評判は、やっかみと尊敬がないまぜになっているが、自ら「公務員に一番、大切なことはコスト意識に徹することだ」と言い切って、手がける

事業をことごとく成功させる。だが、三年後の六十四年に日本では十四年ぶりのフェスピック(極東・南太平洋身体障害者スポーツ大会)の神戸誘致を決めたのは、これまでの「コスト意識」に徹したやり方とはまるで違う思いを込めたものだ。「今後の社会で大きい問題は高齢者と身障者」と

時代の行方を読んでのことだ。「今までは、どちらかというとエリートを対象にした派手なものが多かったので、今度はハンディ、キャンプのある人に楽しんでも希望を持ってもらえるものを」と

フェスピックの参加資格はせきつい損傷、手足切断、視覚障害、脳性マヒ者だったが、神戸大会から聴覚障害者が増え、陸上など十数種目の競技を行う。「大会には(ソウルのアジア競技大会の二十七カ国・地域より多い)三十や四十カ国は来てもらわんと困る。来るのが難しい国には旅費や滞在費は援助します」。大会の運営資金はポートピアの剰余金の一部をあてればまかなえる自信がある。

都市経営者としての発想はもう一つ飛躍して「身障者のために市営地下鉄全線(来年三月で十五駅)にエレベーターを必要なのはすべてつける」と約束した。全国に例のない都市装飾をまた、つく

(河北明)

ポートピア、ユニバーシアードでもうけたお金で フェスピック(極東・南太平洋身体障害者スポーツ大会)を神戸に誘致する宮崎辰雄さん!

魅力あるふるさと——わたしの町づくり論 エッセー 読売賞受賞



「私に与えられたテーマ」

山本由美子さん

戦後四十年、日本は奇跡的な発展を成し遂げましたが、その一方で、心のあり方が問題になってきました。国土開発は産業優先から、住民参加による人間重視の転換期を迎えてもいます。読売新聞大阪本社はこれにちなみ、あなたの町、われわれの町を魅力ある定住の地にすることをうすめればよいか、サラリーマン、主婦、O.L、学生など、それぞれの立場から地域社会を基礎にした具体的な意見、提議をエッセーとイラストの両部門で「魅力あるふるさと——私の町づくり論」をテーマに募集しました。その結果、エッセー四百二十五編、イラスト八十八点の応募があり、審査によりエッセー部門で山本由美子さんの作品が読売賞、イラスト部門で川西竹一さんの作品が入選。エッセーの全文(82、83面)とイラスト入選作(81面)を掲載します。

イラスト	エッセー
入選	読売賞
(賞金20万円)	山本由美子さん (34)
佳作	(腕時計と勲賞30万円)
(賞金5万円)	寺田 智次氏 (33)
稲尾 豊氏 (56)	大津市本丸町6-11-503、地方公務員
堀田 宗平氏 (46)	神戸市北区泉台5-6-14、小学校教諭
和歌山市松ヶ丘2-1-77、会社員	
藤井 淳一氏 (31)	大阪府豊中市上野坂2-1
兵庫県明石市日宮美町7-11、公務員	
松田朋子さん (25)	奈良市敷島町1-541-32、アパレル美術学園講師
奈良市此花区伝法6-3-4、4階、イラストレーター	
金光 清幸氏 (29)	1-1-103、グラフィックデザイナー

審査員 木村重信(大阪大学教授)、山田稔(タイキン工業社長)、漆原美代子(環境デザイナー)、古沢公太郎(読売新聞大阪本社編集局長) 敬称略、順不同

「魅力あるふるさと——わたしの町づくり論」に応募するきっかけは……。「新聞でテーマをみた時、これは私に与えられたものだと思います。」と。「昨年4月から関西電力の月刊PR誌「くひら」で「町づくり」を担当していたからです。図書館へ通い締め切り間きわまで猛勉強しました。各地を訪ねると何から取材しますか……。「まず、運動の中心人物に会って話をききます。宿に帰ってからその運動の評判や町の声などをそれとなく取材します。」

一番苦勞するのはどこですか……。「どんな運動でも百人中百人が賛成ということはありません。必ず反対論があります。その声を文章にどう反映させるかということでしょうね。」

山本由美子さんプロフィール……昭和26年生まれ。立命館大学法学部卒業。5年ほどアサヒファミリーニュース(株)にいたが退社し、フリーライター。新聞、雑誌に投稿したり「リベルテ」 というミニコミ誌を編集したり、自分でミニコミ誌を作っていた時も2年ほどある。そのミニコミ誌の名が「くるまのかま版版」。「魅力あるふるさと——わたしの町づくり論」に応募し、エッセー読売賞を受賞。読売新聞(昭和61年1月1日付)にその全文が掲載された。

- | | | |
|----|------------|-----------------|
| 著書 | ・ 愛をありがとう | 講談社 (共著) |
| | ・ 浦島太郎 | 登龍館 |
| | ・ 聞き耳頭巾 | 〃 |
| | ・ はあとにごちそう | 日本教育研究センター (共著) |

山口 富美恵さん



山口富美恵さん(50)の型破りの半生をつづった自伝的エッセーがテレビ朝日系でドラマ化された。10月20日(月)から1時間ドラマ・シリーズ「月曜ドラマ9」が始まったが、その第1作目として登場した「京都・花見小路の女」である。好評のうちに3回の放映を終わった。その原作である「花見小路に降る雪は」主婦の友社刊(¥1,200)もただ今、6万部突破。全立命人、必読の書である。

山口富美恵(やまぐちとみえ)さんプロフィール

昭和11年生まれ。生粋の京女で、祇園「丸梅」の女将。アルバイトしながら家政学園高校卒業。立命館大学で日本史を専攻。昭和29年、ミス京都に選ばれる。母富子は明治の元勲、伊藤博文の娘。父は京都府議会の議員。躰育ちと差別に抵抗しながら、五回結婚し、それぞれの男性の子どもを一人ずつ、四男一女を生む。祖母の代から花街で育ち、亡母と娘は芸者、自分はお茶屋の女将として、一期一会をたいせつにしながら、仕事に励んでいる。容姿が華やかで、たおやかな京女の一面を見せるかと思えば、気っぶがよく頭の回転が速く、料理の腕もなかなかのもの。「お富さん」の愛称で呼ばれ、学者、医師、ジャーナリスト、テレビ、映画関係者など、文化人のファンが多い。

娘・雪そのとの確執を書いた「芸者・雪そのの青春」集英社刊(¥1,200)も好評。祇園の歴史をまとめた本も執筆中である。

6万部突破

花見小路に降る雪は

テレビドラマ
「京都花見小路の女」の原作

山口富美恵

祇園女の恋と意気地

祇園に生きる京女の人生模様を継承に、占部の四季を兼糸にして織りなす、叙情巨伝。幾つもの恋の花を咲かせ、過去はふり返らない京女の艶ある人生。定価1200円

主婦の友社
東京神田駿河台 03-294-1133

編 集 後 記

- ・ 8号は神奈川県支部の皆様からの原稿が少ししか集まらなかったもので、各地で活躍している校友の記事を載せました。次号には多くの投稿をお待ちしています。
- ・ 校友の皆様、良いお年をお迎え下さい。
(武田、上田、都築、山下、長浜、泉、長谷川)

近未来を見つめるライフ・デザイナー

トーア株式会社

主な事業内容

アパレル

宝石貴金属

毛皮

化粧品

呉服

出版

健康関連

貿易

外食

総合不動産

-
- 本社：大阪市淀川区中津1丁目6-24（世界長ビル）
〒531 電話：06(372)4051（代表）
- 東京本部：東京都港区南青山2丁目24-15（タワーアネックスビル）
〒107 電話：03(423)2811（代表）
- 横浜支店：神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-21-9（三善ビル）
〒221 電話：045(312)1321（代表）
- 京都営業所：京都市下京区松原西堀川西入ル北門前町761（セントラルビル2F）
〒600 電話：075(801)8726（代表）
- 神戸営業所：神戸市中央区明石町18（大日明石ビル3F）
〒650 電話：078(392)1191（代表）

代表取締役社長 相澤良信（昭和30年理工）